文久六百歌

秋之部

七月

七月七夕賀茂のつゝみ河の畫繁る
七月七夕ふる雨物思ふる成別迄 素心
七月七夕物思ふ秋の萩の葉 宣陽
七月七夕物ふる雨ふる雲ふる 〃
七月七夕牽牛庭下結のもとのひとの 忠孔
七月七夕牽牛根あらう月の 柏翠
七月七夕牽牛のとまる八重藤 仙芝
只居るかぎり七月の秋ぞ 兼純

[illegible]

立秋

立秋や[illegible]の[illegible]の[illegible]の物

[illegible]清氏

立秋や[illegible]の宿　五湖

秋立

秋立つや[illegible]の[illegible]の[illegible]　是外

秋立つや[illegible]の[illegible]の[illegible]　歌象

夕影の[illegible]や秋の[illegible]の[illegible]　清丸

[illegible]や[illegible]の[illegible]　[illegible]晴

秋立つや[illegible]　一吸

[illegible]の秋

[illegible]の秋　公成

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の秋　[illegible]郎

[illegible]の秋　素閑

[illegible]を極めさせる[illegible]の秋　[illegible]

小堤[illegible]神[illegible]の[illegible]の秋　[illegible]

堤[illegible]人[illegible]の秋　[illegible]

[illegible]の秋　杜丘

池[illegible]の[illegible]の秋　乙郎

[illegible]の秋　文種

[illegible]の秋　[illegible]蓮

[illegible]の秋　[illegible]

[illegible]の秋　[illegible]

[illegible]の秋　[illegible]

[illegible]の秋　[illegible]

[illegible]の秋　[illegible]

初秋　きつ秋の空に向けものの上に雲

初秋の五くさ山を水屋の丸　一清
吸ものよ初秋ふとり筆ふり書　五風
初秋やこのうつり物て来る笛の風　山出
初秋きこや夜よりの月の白い　都風
さ寒秋とちらぬ田の表物のいろ　美子
初秋や屋ようつ〜きの　楊下
初秋の帯しきや雲の空まつる　佳音
一本の木よりの秋しるきこの丸　隆岳
風よりる秋の夜もゆく文一ふる　義光
松をふく風やたりて秋と来る　中巻

二日　岩時
雲の飛空の雲ゆ鳴るなりこの秋　波路
押乗よ行京ゆ出て秋暑　京心

秋の初風

人中や秋の初風者のふく　水巻
雲をうつや秋の者ふ風神よ入る　相左
雲こそ秋ふ秋ふ秋ふ秋の風　徒巻
世ちゆゆふ秋の空　可大
篇をく日の長ふ秋の風　交陽
家世ふ葉ある雲や秋の風　自光
未世等のあるよ秋の風　東取
秋風や横ゆ月の雲　左

等未ふく中そのちのゝ中や秋の風　蓮く
秋の世や引　ゆるゆるのうへ　め牡
秋風や行くゝ先よりある松の葉　ちの女
ちゝり来るゝ人まつ門や秋の月　尾村
蛍の世や少松の中れ出ゝつ松　士芳
秋風のこゝろ　蛍きこの葉　曾牡
あよ世よつゝゝの付て秋のうや　之誠
野ゝゝ中よ立ちうけきのう見　歌角
秋風や毎の信よまくせしめ　糸宝
行き風や夕よあゝ松ゝ秋空き　此嬢
秋の夜ゝ行ゝ淺ゝし信蔵　子乙女

秋の夜の風ちく針うつ糸きう乳　西牡
行き風ちるの中ゝ年一猿の面　鉄池
ゆゝくゝ夕よ空ゝ秋の夜　素弓
物ちゝ空ゝ中きゝよ新ゝ信し物　文舟
七夕や弦ひちゝの中る海士ら髪　嵐山
物機や夜の空ゝ塚のゝ　義将
ちるゝゝ空ゝ寄ゝ家ゝ物き竹
七夕や小筆ゝ宮ゝ宮ゝ書き　蓮ゝ
七夕や岩門ゝ町ゝ町ゝ　宝岩
ちるゝ空ゝ空ゝ空ゝ家ゝ　仙蓮
七夕よ竹ゝ海ゝ新ゝ乳　岩山

七夕の宵 古歌
たなばたや八葉蓮の花さかり 宝書
物ぬぎ掛ける枝や桜木 五俳
物の音動く風あり星の世 世貞
風絶えたるのち風あり星今宵 定久
汲出せば水の冷たし星の光 の祐
星合 星合や言葉の数の物ぬうて 徐遠
二ツ星 何まで数へ年ごとに二ツ星 破月
天の川 星の世 雲うすくなりて星の世 重山
星の宮 達ふ星の宮 南天
星祭 池のある庭うら宮に星まつる 二酌
星の宮 祭の日 数珠を星のうらうれ 若坊
天の川 世をうの秋ふかうぬ天の川 清丸
よきかるよ庭ふ出ぬ天北の 海水
辻の灯の宮よりの辻の川 葉史
一ましよう祭の日 あまの河 六魏
あのまるまる天の川 野閑
見ましのを宵ハ天の川 倦雲
弱うあふ世町ましまる天の川 嵩山
硯洗 研ぎ硯あるひの硯 中條
多ゆき硯洗ひの先 ひかる 陳毫

雲の秀峰ふかしたる　雲山
のうつゝよりいでて物くもるかゝ　山神　霧子
新ふるゆきちらすまめて　貧山神　窠蕃
新　東　ゝ山作や物のこゝの秀ゝ物　士教
東作ゝ山物ようゝ　新しうれ　雪初
立　琴　立春ようさうひ出ゝ　松の秀　仙芝
ゝゝ　妻　めゝ山ふ風ゝ人の秀ゝ　妻　裏城
酒源雨　出ゝ晴ゝ秀ゝ　酒源雨　文城

盆の月　夜ゝ　新ふるゝ　月　清民
人の秀ゝ　物の秀ゝ　月　酒簾

火ゝゝゝ物山の秀ゝ秀の月　強月
新ふゝ人ゝ出ゝ　ゝ秀の月　蕎麦子
夜ゝ出ゝゝゝ人佛ゝ　秀の月　栗子
家のうち出ゝの人ゝ秀の月　世貧
山ゝ出ゝのゝゝ秀北月　儿義
旅ゝ出ゝゝゝ人ゝ出ゝ分魂　田儿
修仏のゝ出ゝ　紫蕾
門の出ゝめゝゝ出ゝ玉　古
世出ゝ人ゝの秀ゝ秀ゝ　遠く
神引ゝ人ゝのゝ秀ゝ秀ゝ　酒永
踊る出世の秀ゝ　青蛙

踊

生分魂

田の[illegible]人の機嫌を踊この形
人をたたえ歌ふ歩きたるさま
嫁人の物をしてゐる踊この郷
そこのの人うたまの生をうれ
むき物をこの人の踊
を怪うまくら鶴の踊
つて入るもおかるさま
鶴のたち出のさまる踊この形
角力のこうもきてたる
そこき相手出てよ
たちたる写よりたちたるさま

蓬心
牧蕨
軍扇
生家
精中
精霊
井水
葉実
紅秋
重箱
書松

蒲公英
百賀
冥郎
蒲力和
高岬
砂もらふ新よりく
角力和
テハ
格新
穴ぐらもまたのうもの
相入る新ら
迎出
蒙笛
二百十日
隅ゝ
二百十日の角表
呂山
種蒔
二百十日北西の
中書
打ちまく
二百十日の形
表山
知らもの
二百十日の
住吉

霧

雨ふる雲のたちまちはれて秋の霧
見えそめの葉さきのうへや夕霧
陸奥さまの霧の秋の陸奥
江雲のふの松はたかや霧えそめ
色濃ゆらして霧をまの色とり
色をめる世の野のひかや霧ぬり
世をる葉の葉もまた霧の玉
白露や世をこそ秋の袖ぬれの
雲ぬのさめて雲や世をる霧の雲
霧ちるや世をの紅の袖の雲
ちるまるふのきを知るや雲の霧

遠く
荷山
名秋
名鏡
世霧
住吉
白
雲
長

旅をすると名ゆうの霧 叶の霧 文種
七叶の霧をめの名をて秋の霧 仏囊
世をちしてふ霧ふる月夜の秋 如綿
白陸奥ふの世をて霧をまのふ 慈圓
夕霧や世をちるの墨の陸の霧 牡蠣
雁の世秋 霧の秋 霧の霧 嘉縁
世をちるふ世をる遠をる霧 世霧
見霧の色て霧や牛の霧 一宮
霧ふ明け霧ふ霧ふ霧の尾 義美
霧の霧霧 明をふ霧のめり 仁之
名霧や叶の霧 出て川 霧ふ 徐蓮

霧

出日や稲葉に霧を払ふあさの花　米鶏

さまくにさゝの音けるや草の露　亀月

西露や月よめのきりかね姉ふゝき　寿芋子

ふけハ柔ハ霧の底出あり小松原　自長

名木めゝやて出依しらん霧の底　猿月

人足ハ往きかふ也や楼の霧　古業

寄ふのさ霧や笠が樹の雫　素紅

天堪根や霧にそゝぬ庵組の谷　賀山

稲妻

寄ふるやあとさんぎ長浪　邦丞

いなつまやさらくなきも煙かなり　古崇

稲つまの走るや節にかゝるちのら　一得

稲つまハ狗の遠吠消去もなく　みく

いなつまや八日に果すき田の何き　春舩

稲つまの走りし流るゝ宇瀬乃船　乙丸

いなつまのかゞりさいる汀の葉　古鼎

水郡つまや茜の雲書ならか冊　波角

稲つまや裸まに信山ゝのしま　不郎

稲つまや光りける舟をあける音　蕉帆

いなつまにそよぎ供しやくまり川　宗丞

稲つまやちらくとする笹の露　居

初嵐

こちら涼に小法ふ霜ありの初あらし　書僊

伏鶉の出そのる気や初あらし　菱白

迎火ふく燃えの一聲や稲あらし　梓舟

髪つきし木の葉もこほる稲嵐　寂野女

笠あらふ椀杖のかけや稲あらし　不二丸

立出や老の聲や稲あらし　蓮之

木の葉も傾ちらしけりきつ嵐　古 花國

ふゑつゝ来し帆をおろすや稲あらし　、

墨扇

夕ゞのせや扇をまさかれし草むらへ　可轉

粽まきの日もよりける扇の形り　金 以葉虎

墨洗

書きかけるや雁は女子の桃色　一花

燭の別

行かりもあきらは燭のなかば春　不史

身ノ入

身にしむる風や女子の深き小袖　壹雪

身しむくいふさもおちし笋の乳　嗟風

新涼

明かちち虫宮やおもて新涼し　自長

八月

竹の新構するやつく葉月の乳　史青

八朔

八さくや穂波の浅くる山の裾　工下 素山

八朔や月よりまさりし秋の空　徐来

八さくや赤坂とりし名古き町　水壺

二日月

いつまでるゝ中々になりぬ二日月　蝶城

竹に寄るあきるはゆりや二日月　卜外

三日月　人をもこの屋に物なく二日の月　水戸　藏

三日月のようにもとくとくもとくとくもとくとく　妙白

三日月の屋根の屋根の屋根の屋根の屋根　藤熟

見てうちとけ来のうくもとや言の葉　外治

三日月やうるいまくく格子のしの　敬角

三日月やもとをけるをもきこそ　祐之

初月　川はのうくもとくとくとくとくとくとく　藤雷

夕風に只ものもとくとくとくとくとくとく　黄季

初月や山をもとくとくとくとくとくとく　入の歌

初月やもとくとくとくとくとくとくとく　龍蹄

はもとくとくとくとくとくとくとくとく　双岳

初月や新月　玉清

うくとくとくとくとくとくとくとくとく　乎東

刈もとくとくとくとくとくとくとくとく　寿角

初月や格子とくとくとくとくとくとく　梅堂

結宵　まつ宵やまとくとくとくとくとく　九紀

まつ宵やまとくとくとくとくとくとく　学居

名月　名月の人を世にまとくとくとく　為氏

名月やまとくとくとくとくとくとくとく　中几

名月とくとくとくとくとくとくとくとく　市猿

名月や枝もとくとくとくとくとくとく　古棠

名月をよもとくとくとくとくとくとく　乎東

石月や春ふかく風もつる生のら　白岩
石月や光をもつ呼ぶ人ぞる　古東雲
石月や鷹ぶきゆめをもこを見ぬ　此嚢
石月や法ゝる物のゆめこの夜
石月や舟の絵ゝる見ゝ　雪　一枝
石月や雲うこの世人星ゝゆる　李角
石月や法ゝあゝゝ庭の内　秋望
石月や宰をゝ水ゝ松の新　青蛙
石月や雪の音のゝ石のうへ　表哉
石月や雪ゝの落ゝ松の下　春松子
石月や春ゝ松ゝ樣の次　玉清

石月や春ふかく生ゝ雪の陰　芦子
石月や舟のゝ見ゝ松のうへ　白
石月や夜ゝ松のゝ見ゝ　祐之
石月や十出ゝ見ゝ庭のうち　玉出
石月や法生の底ゝ磯あゝ　芦子
石月やうき雪の陰の月船ゝ　南天
石月や起ゝるゝの松の霧　ハ
石月やゝゝきゝ木の写ゝ人の　浦山
石月や春　松ゝ　ゝ　後凋
石月や光ゝ　ゝ　ゝ　播山
石月や　松の雪ゝ照の　山古

今日の月

いま居る空中の廣しはるの月　亀将

棚の葉枕成りおちて見る月　五渡

秋ふの月さへ乍ら風もこころには雲　徐蓬

雨風に哀きを居りなる筆かの月　也儀

見る人ぞなし　物の風情や此ふの月　也岸

色もかゝる我輪をこえてとるの月　喜山

出来るかぎりし山下用事しはふの月　帆足

喰の巣のたてよ出て筆かの月　抱蓑

見ゆる欲の星をまで月見はふの空　社之

月七宵

よくくぞ見はふ星に光るや月夜かな　東扇

寝られ人の何とも悲しん月夜かな　〃

月見

星ゆる写す渡りつゝまかる月見かな　淮藤

宵よ来て帰かは其て月見かな　逢く

問ひ出ゝく之りの乗りを月見かの家　雲婁

芒の穂にふく世し舟の月見梁　玉碩

月見して水を焚く居る山家の秋　一川

大川へ皆乗出すや月見舟　山古

世の中すまいはまるも紛の月見かな　橘下

釣衣るく鼓か来まを寄りて月見かな　波岡

紫の光潜風に松の月見この秋　蕉義

秋の月

かゝるおもて衣を通して秋の月　芦意

山川や衣の水ましく何きの月　是外

沖まもる山の端さやかに秋の月　蕉玉
地をうるおすあらし雲あり　如風
雲ぬけて山の雪ぞ秋のつき　雪成

雨の月

降雲の乱くに雨の月　一亭
ふる雲のうへ高き月　葉園
雲紀ものこりなし一雨の月　公國
月の雨　雲ふるとはなりの月の雨　玉清
雨ふるとはなりの月の雨　雪晴
降ふり降て雨　月花雨　徒然

月

庶ふるつゆ紀らるる時て月の宮
ひかるまつの地高き雲の宮　徒然
月の宮ゆるるふるる陸ゆけ宮　波洞
時雨あけくる月まの支度の事　二中
陸むれる哀ふるもるる心うれ　徒然
月の雫求を家ふる風のふく　雪堂
月ふるまるるのうるし遠る庵　黙化
月雲の深さや峰の月を松　仲麦
時雨ふる庵ふる雲月の宮　山士
月ふるる庵ふる月の雫　山子
月さらにいるるの影ぞ陸ふる　公成

九月

秋の夕ぐれ行く雁の霜
やどりは見えず月ぞ残れる　秋吉

廣澤や月は昔にかはらねど
流れて変る人の世の中　波間

芋を煮て酒の残りの月
許十

秋ぞ来て近く聞くなる松虫の
月は昔に変らぬ音を　美井

秋の夜の月の出潮の
満ちぬ川の水の面に　出地

京の空の月をむかしの宿の
月は変らぬ人の世の　山吉

十六夜の月はまつうちを
出でぬかな　出浜

廿六夜の月のいでぬ
前の海へ沙　若子

此嚢

中よりいでる月のいでぬ
前の海へ沙　卜外

更行くや月の
居残る月　素心

去夜中の月をたのみや
明るし　陸変

二日月の
一字

名月や
篠の中　知路

名月や
ふる雨もふきて　文成

名月や
雲の中の
鶴　鶴翁

二日月を
斜めや
波のうち
牡丹

浮舟の
陸の
出でぬ
野路

峰の
雲の
眺めて
鶴田
文種

時を
待て
鶴田
此嚢

初汐　初汐や峯のうふかぜのしら　松
神しほやこすとる雲も雲の上　吉林
磯の火は白くうつるる秋の汐　梅渓

九月

海あるは山にふりしは九月雨　好山
雨よ春の去るとうつる長き九月哉　乗空
后の雛　何年ぞ雛まつるまで居る雛　不二九
后の月　はつきりの秋はあるまて十三夜　清民
秋たるの盤のこのもとに後の月　甘茶
後の月　秋里の寺の月　四首

始めとする始めの月
不見ひよ九月ふ八月　后北月
雨乾ぬ雲ふ八月　欲江
山乾のうつる後の月　末久
弟の乾よりしは月後の月　庭竜
及秋きの秋八後の月　野竹
家立て家と后の月　芭井
端手の月後の一き　一笑
秋高き　月　書義
門の外ふ秋書　月　蛍月
書かるふ蓮ものもと后の月　如一

夜長

永き夜のちからつゞくや藁の砧　綠市

寐て覚てふたゝびきくの夜長かな　曾貌

庭すゝき有のさしむ夜長の家　呂山

霧　霧ふかきふくのきゝ哉きゝのくらさ　文鯉

霧時雨　月下に浮き霧の峠の松の枝　呂波

霧寒　霧寒さやおもさき海老下みの淵　香松子

霧寒さや日和のゝまる野の山路　玉清

乗かけぬ夜舟や霧の朝寒さ　卜外

そゞろ寒　秋まし葛根は降てそゞろ寒　月栖

夜寒　吹寒やおくり日暮の峠の花　泰華

秋寒　寐よつきあはせちの夜寒の請の音　丶

鶉

降のふまし夜寒の鶉か声　佳芦

人出て鶉きしよき夜寒の礼　島民ぬ

鶉まむやたゞのしまに鶉ふ漁家　泰之

鶉なくや妻へむかし庵のくし　付藻

いさなくや鶉鶉のおもしつき　乙郎

鶉なく鮓おらつゝ市の魚　井珠

朝寒や鶉なき来る香り香　玉清

鶉啼や舟へあけおむとけ此　松民

鶉なくやちらる落つく旅もより　璞山

秋寒寒さよ藁のうえもく海老代　霞山

秋の雨　ふるさと　蓑のもりあり　鹿　秋の雨　蓑子
若き　賞　秋　秋の雨　柳山
四の時　雨　雲　秋　秋の雨　茅山子
海　人　引　ぬ　雨　南
降　雨　の　人　雨　雲　雨
ま　ふる　秋　や　雨
家　秋　の　雨
秋石の　雨　秋の　芦陰
秋の　雨　秋　雨　完仙
川　雨　秋の　雨　山九
雨　秋　の　雨　秋暁

もつきて　外山　秋の夕　露山
白　人　秋の　雨　玉清
冷　戸　人　秋の夕　里廣
秋　雨　秋　雨　鶏秋
蓑　秋　の　雨　完里
秋　雨　秋　雨　里泉
秋の　雨　秋　雨　此嚢
雨　の　の　雨　雪秋
秋　雨　の　雨　水巷
報　秋　の　雨　徒食
ぬ　の　秋　の　雨　山古

秋　俳

秋近

行秋

九月尽

秋の雨

秋日和

秋の雲

秋の空

文雄

澤岳

嵩山

文京

双岳

古逸閣

嵩山子

宋子

一雨

管橋

中川

秋の夕　秋の雲　都風
花波根や行雲のうつるらん　秋の月　之助
樓の葉のうらてまはや秋の色　常時
秋の山　秋の山うつるうつる書　雪宴
よう沈てとうらんや秋の山　青義
新月もちてさの行秋の山　乙東
秋の川　岡崎の水清の水一秋の川　文里
月ちくも夜ちめのもの　秋川
秋の雜　夕雲や波のうくるもうつる秋　居
秋種よ秋を　ちくるこ立居　乙東
秋の上の秋ちものふやこちやこ　薫俊

秋屋ちる秋ちのきの山庭の九　梅通
雲雅てまさ雲つるや淋の秋　山士
夜をちちぬ雲ちの稀ちの雲の秋　波月
秋の雲人めてめちの陽ちの雲　梅遊
ちや秋ち雲ちるちの中の雲　徐集

一　葉　きくの八ちちぬ雲や相竹葉　長代
ちつちちちまきて尾や根一葉　地蔵
一夜ちる雲つくし庭の相　芳秋

[illegible]人[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]く一紫の形し　古崇
[illegible]のらまたちうし相の[illegible]　屋
[illegible]ら[illegible]ら[illegible]枝[illegible]きよ一紫ちる　文宝
[illegible]ら[illegible]ら机[illegible]朱ら一葉の丸　梅渓
相[illegible]葉ふ[illegible]紫ふ[illegible]ふ[illegible]きし[illegible]葉　[illegible]ら
[illegible]ら[illegible]の[illegible]ら[illegible]ゆ[illegible]ちる柳　牡蠣
[illegible]ら[illegible]ハ日[illegible]ら[illegible]ちる柳の葉　仁安
[illegible]野[illegible]の[illegible]ら[illegible]ちる乗　[illegible]時
葉の[illegible]ら[illegible]の[illegible]き柳の丸　[illegible]於
嵐尾州　嵐尾州　[illegible]四[illegible]野[illegible]野[illegible]　[illegible]の女
嵐尾州　[illegible]ゆ[illegible]ら[illegible]ふ[illegible]ら　[illegible]　[illegible]坑

常山花　[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら常山の丸　不二丸
朱雀　[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら朱雀の葉　[illegible]伍
[illegible]ら[illegible]ら朱雀ハ日[illegible]ら門[illegible]ら　[illegible]
[illegible]体[illegible]ら枝[illegible]ら[illegible]ら朱雀　一[illegible]
[illegible]ら[illegible]ふ[illegible]ら[illegible]ら朱雀[illegible]丸　大[illegible]
[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら朱雀の葉　朱和
野[illegible]野[illegible]枝[illegible]ら[illegible]ら朱雀[illegible]丸　[illegible]
[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら白朱雀　雲[illegible]
[illegible]ふ[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら朱雀　由[illegible]
野[illegible]ゆ[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら朱雀の丸　吾妹
[illegible]葉の[illegible]ハ[illegible]ら[illegible]ら朱雀[illegible]ら　丸[illegible]

艸の花

雨夜のたくさぬらし艸の花　古烟紹

艸花や人の為手折られて、　是剛

艸は山は秋も案内艸の花　為山

月の白山霧のま白きや草の花　雛市

ちりちる露の夜明や艸の花　墨东

刈あとに移り律てくさの花　林鳩

草の花さくや空の錦なり　梅四

花なのら菜花寐さんて秋の原　清一

女郎花

よくよそへ女郎花　其俊

明星の遠目にも粧ふや女郎花　如白

艸の花よしなにつけあきなれべし　江凧

雨のふるまけ女郎花　木栽

女郎花市まに　天由

女郎花市まにあきをまちつゝ　士明

糸薄

薄の空のうくまの穂　為后

糸の日やなびく露の穂ゆらり　桑魚

朝の風や数の露の足　桃山

何ぞこの庭の女郎花や実の　蒼山

寿の数さよきかな　古　繁古

糸のみや尾花はむらく　芳艸

糸薄の夜明よあらぬ野の垣　湊海

四季のうつり行かはるを見て　エト　素山

多くの年をへたる松の葉の減る　商長

蓬のもとのくぼきさとのうら屋

多新の物語のくまなき中に下り舟　梅臣

なかきこのあやつり人形未だ見ぬ人のため上　常信

春は見る人の調ふるものの風情　要蓋

ゆくさきふき　蓬　さくや雨あの星　赤月

多のあやつり夢の竹樂を富をこの　心囊

なかきのはをこんの恵を江の帰除代　精中

多のあやつり人形のくまなく物語の春　機宣

朝新を金ちくこんのうちきを　梅左

萩

日の暮さうらさめ降りて萩の花　陳角

いつあの引しやしたの赤目の萩　梅石

下たるあもうつくしく咲きの花　象代

風もたちやうりぬうらもや山の萩　素尾

焼くもむ萩よりもの蓬の葉　徳平

山の萩うちたるもうちきうり九　庭の

土蓋陸ふちの赤きもの赤て萩の出る　山吉

萩うりの萩や少し赤のうちめ　一雨

萩のもとうまのうちは日暮のうち雨萩の花　素松

下蔭うち朱の白西赤とやきうつる　徳山

秋萩子　陳芽山の梅ふる秋うちより雨　完徳

葉

葉の出し頃の立て時の葉を
色数多書しよあり葉の葉

義袴

まさ義きもの袴

刈萱

刈萱の風もちのくを入れ

桔梗

うるかの日信よまうぬ生の位

芭蕉

篇の日歳よりの芭蕉の

一信　水巻　竹嚢　粤雪　呂山　竹嚢　徐来　房山　水巻　竹嚢

下

焼てのよさるを我の信ら

俳雨を備へ

言へ入る風を

萩

竹蜘よ来る風あり萩の寿
もう萩を来る来る萩の寿
宵のう来風を蜘よ萩の寿
蜘を出る月あり萩の寿
来るる初き来の来を萩北
何う嫁を月よ萩の来
竹俳のう来を萩北寿
引汐よ来う来萩の寿
海を出るしハうを萩の寿

信民　牡蠣　俳変　素丸　生雲　其来　義山　信雪

蕎

桃

海を牡蠣来一庵

芹舎

ちまなのう淡くむしまる唐辛子　梅通
もへのほし異なきかたに唐からし　古蕉古
辛さうに霜にゆるむや蕎麦畑　栄葉子
ゑんくまに深き唄ふや唐からし　東代女
はなれ月にあるまいぞ唐辛子　雪山
ゐる竹に秋の唄ふや蕎麦畑　種好
ちりそめて何にかかれし蕎麦畑　竹嚢
赤きなは浅きめでや鉢の唐からし　蕪賎
散るにまかせの足に唐辛子　文里
人かくれて折りや蕎麦畑　静風

鶏頭花

鶏頭を実て子の手まくらに鶏頭花　寒義

曼珠沙花

花の墓のまへ未だし曼珠沙華　表房
塚をめぐりこのくらさて曼珠沙華　上京 雲
塚のあるところあへのく曼珠沙華　早乙女

蓮の実飛

ゑんとして蓮の実飛日向の気　峨藝
蓮の実や飛ぶるかな一抱いさむ　白鴎
今飛ぶ蓮の実さそのまゝ扶このかく　袁爪
宵寒や蓮の実飛ふ秋の暮　蒼梲
蓮の実の庭中で飛ぶや風の跡　一亭
蓮の実飛ぶとふ音にもあらず　雪敲
ちまちの実や風に飛ぶなる　仙芝

鶉

野さに鶉は鳴くも鶉の声　文雉

[illegible]　　郭公
[illegible]　　又越
[illegible]　　仏象
[illegible]　　甘蔗
[illegible]　　梅通
[illegible]　　象堂
[illegible]　　心堂
[illegible]　　芦川
[illegible]　　表山
[illegible]　　此裏
[illegible]　　留月

稲の花

[illegible]　　稲の花　　郭公

初紅葉

[illegible]　　表山

蓼蓼

[illegible]　　蓼蓼

蜀黍

[illegible]　　蜀黍

木犀

[illegible]　　木犀

花芋

[illegible]　　花芋　　此裏

芒

一ツ家の庭のすすきに毛生代　芦陽
葉摺すすきに思ひの孔　蒙園
与市のかるかやに歩まよひ　文雄

雲霧にかくす月の影ふきぬ　古西馬
はあきすすきに出まよふ　蓼洲
雉子の家のすすきゆへ思ひ芒乃　竜稼
月の入はけつて野すすきの原
暮る日も雉子のうすき芒乃　嘉数
青空の灯ふるすすき　芒ふく　臺松子
三日月を出上るすすきの芒の形　花嘯子

芒原の上の埴生のすき芒の孔　楊下
種の実ふ実すすきふるすすき　住芳
枝ふるる鐵ふ小ちの一すすき原　雪海
入谷ふあるふるすすきふすすきの孔　叶塢
陸ふる月の夕新すすき芒の形　文里
芒すすき芒ふすすきふるすすき　古影
籾の上はすすやこのふるふ芒すすき　不定
出ふの風ふしすすきまぬすすき　文雄
乗ふる田畑ふすすけて芒すすき乃　後水
小穂ふすすの家八根ふの一花蓑　常晴
思ふのすすふ芒すすき　屋

萩 芒

そよ風にまねく芒の光りかな　字乙女
穂に出てきゝや夕日をまねきし芒山　、
おもきや出る華を見て人の門　庭の
生るまゝきぬしきゝ萩の芒原　完里
うつき世にこゆる薄の穂ならず　青蔭
行人をまねきの中に北空かな　森仙
穂しく舟にまよひける芒かな　松民
山麓に立その芒かなしさまき　望磨
穂の出るも芒かな　山吉
生まるも通りぬ萩や萩まてき　生嵩
あるみの所に萩まてき　、

紫苑　千草の中に高けき紫苑かな　古影
秋海棠　うつしきの皆乞しく秋海棠　契史
秋のこの日くここの花秋海棠　霜澂
葛の花　まつしつくのる動きぞ葛の花　鷺戒
熱蘇に引はらふやくずの花　文種
筑紫の来に引かたも折まなん葛の花　一隠
隣の垣根のかきや葛の花　後潤
鳳仙花　足代からちに入りて鳳仙花　花治
去年ある実に出て来る鳳仙花　雪節
七草の花に入るし鳳仙花　樹悦
搔ふまゝに隈のもしるや鳳仙花　可保

鶏頭　鶏頭や庵もと歴の秋まぎる　南関

我身にも老ぎゆく秋あるや鶏頭花　義吉

うらの冬まてせの紫鶏頭　下外

葉鶏頭の何よりも赤きのふく　蘇廣

蕣の花　葉を喰し奥まで蕣の花　公成

蔦　かゝりし侍りてる日のあたる　花洪

荔枝　枝もなき垣の外の世ゝの　隆雲

東埔塞　荔枝あるせのまゝ荔枝哉　飞郎

茶　茶引八艸のかゝる日の　一川

かゝかく　うつらに夜は茶　一宇

ゑゝかくや毎日注く日和風　之斌

鬼灯　鬼灯の清やかに俤なふ山家の秋　完伍

苅萱　出かき没ふその名あるか苅萱　鶏悼

萱僧よ声の出もなく錦かな　雪江

苅萱咲て稲かり事や苅萱　粤雪

稲

手稲の香を仰ぎこの日和風　亀頂

手稲の香ややすく夜来へせぬ門の露　健笛

今世の香や末陰へ通ふ日和かな　浮宴

手稲の香せもせるかゝら日和かな　喜雪

以稲の香や田のまゝ嵐哉　水喜

米のへゝ穫に祀れる今の秋　藤市

出羽より入る也 [illegible] 一種の秋 陸一
[illegible] 風のふく稗種子 素仁
[illegible] 稗種子 文志
[illegible] 稗の波 素彦
[illegible] 稗の波 屯侯
[illegible] 方へよせる稗 丶
[illegible] 神の社 橘淀
[illegible] 蓑 此
[illegible] 稗 粤雪
[illegible] 稗の穂 見外
[illegible] 稗つむ [illegible] 家敬

稗 [illegible] 押あるく 上種稗
[illegible] 稗の穂 雪山
[illegible] 稗の中 貞忠
[illegible] 稗 一傳

蕎麦種 旅人のよ [illegible] 蕎麦種 晴河
[illegible] 蕎麦種 貞忠
八束種 [illegible] 八束種 [illegible] 人の 双岳

菊 [illegible] 菊の [illegible] 文里
[illegible] 菊 [illegible] 菊の [illegible] 好山

雲霧
嵐成
戦山
暴臺
俄雨
水壹
山吉
波間
口外
星岬
雲晴

雨代め
雲霧
二中
係友
車屋
無星
仙芝
め縄
玉英
樵居

紅葉

来てよるやきはく紅葉哉　古巨月

さらに又一葉あるちるかな　蓮之

湿気もくつの蝶もちる紅葉哉　雪几

一樣の紅葉に朝日夕日かな　素菊

壺をさけは皆一葉のちるちるの木　鶴雄

来る方の雨も会らぬ紅葉哉　蒿雨

あら淋や枯てもちりの庵　梅涜

鳥も来ぬこゝに小寺をとも紅葉　静江

蔦紅葉

宿の日や蔦の葉末は引ちる　嵐史

来ていては紅葉もぬるや蔦もちる　此嚢

草紅葉

中々に池のふちは草紅葉もちる　中僊

大川は流れて草紅葉かな　波月

生垣をまもりて夕日やかけは紅葉　里席

柿紅葉

このゝ枝にありしあの柿の色　一苑

櫨紅葉

色はつのをも櫨の紅葉　菅阮

色葉松

色このぬ松を紅葉にかな　、

色このぬちの松の葉の紅葉　岳東

いろこのぬ松を紅葉のかな　波月

梅紅葉

葉もさかりはふ風に梅紅葉　一静

秋は風のふきはしの梅紅葉　常家

色の花もよき梅の紅葉かな　庭伝

りんごの花はちる梅の紅葉かな　杏寿

朱の實　竹ちかめたちきの陣屋や家こ朱の實うれ　文屋
鶯にの家てきたあもたち朱の實うれ　業俊
家ちかてこ庵てよ竹ちかめ朱のこ　業俊
時もたてよ柳ちたこ鶯の桜の實に　粤雪
仏手柑　仏手柑や薬山田てうちまた　再俄
球栗や むしちのうへよ　二口　二の　多乙女
義くうや宝きちきたふ山の西　雪宗
蕨栗や　行家　きふ山野　義　俊長
豊年や　柿よ日ち照雨ち　芹舎
春うめた　後日のこうや庵の柿　業葉子
行うてよき　業八きうよあき　熟柿に　明月

密柑　家ちかて数のふうて密柑うれ　若山
ちたこ又こうやのこのきうてきたこのん　水雪
埋め縁　一出ち縁ちたきたる柳ち雨このれ　義光
来　柑　うち柳や芹きたこのうれ　俊長
芋の実　ちあけうちたこうてきたこ芋の実　長俊
芋の蔭ふ柳のうてきや芋のうて　芋俊
就　後　就後や芋こうてきたこ　青山
豆　引　豆屋や日の出うてよ仕業　俊月
末の子　陣屋うてきたこ大豆引　俊長
末の子　陣屋うてきたこ末の子に　山吉
ちたこうてこ蕎うれ　柳吉

おもしろさ月は見かねて木の子山　梅通

深山路や踏ならぬ菌の見えぬかな　進揮子

葉も見えずあるべきや木の子の香　季雪

むしろには味も分かるや木の子汁　夕遊

松茸やまだきのこのより見ゆるなる　桃之

窓の茸や山路の光る増変　作囊

茸の香や出る時来る月のつもり　文雅

茸狩や髪しきあるる霞まで　巨陵

たるきにはさかし一茸や天狗茸る　之試

稲孫田

稲田や通ふ人あまる香養る　笋悦

気にし稲のまれる紀の夢哉し絵　一宇

落し水

汲あげて川へ流しやゆかし水　其松

流れ出る声て流せおちる落し水　素萩

くらし蛙も見たる暮ぞかし水　作囊

蕎麦の花

此時にあるに見えしたもとの花　蓮宇

姫跡も木の根はくれて蕎麦の花　市芝

蛇の畑に通ひてなるなるの花　艸友

磨山別

大雪へ備へ磨や山見の地　曉風

今の国へ落ちて磨の山々地　青蟻

秋の坂

織りし鍛や米土の一坂　雨丈

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

簾立歌　何時とも人のよりくる簾立て　寒菊子

[illegible]　丶

[illegible]　一家

[illegible]

松歌　松歌やのこりなく月の影へ　小松

[illegible]　篠山

新歌　[illegible]　寒子子

新歌の[illegible]　丶

新歌の[illegible]　[illegible]

[illegible]

蓑歌　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

明の寒さもさることながら
ひとつの寒庵のあり
ぶらしや一望もよく
秋の餐　秋まのし　さらもいきおろこの孔
まよ入　餐も　秋さ　ちり
蓑　蛍　この蛍や　ひとり　庵　附　寒　かそる
この蛍は　寒さ　むかの　ふの孔
旅　明　ら　庵や　旅　明　第　此　八　志　蓑　蓑
庵　ふれて　寒　よ　ち　ち　旅　明　代
秋の　ふ　ら　て　ち　ち　ゆ　ら　ち　孔
秋の　旅　此の　ふ　ち　出　る　秋　の　旅

蛍　蛍　蛍　蛍

蛍

ゆさしこまる　寒　ち　寒　ち　寒　ち　秋の　旅　庵
秋の　旅　明　ち　き　し　寒　ち　ち　の　庵　初　蛍
寒　稲　り　こ　ち　八　寒　ち　ち　秋の　旅　板　海
蛍　ふ　き　の　ち　を　待　い　こ　ち　ち　蛍　蛍　蛍
四　寒　や　寒　ち　人　ち　ち　く　ち　く　蛍　風
望　人　出　ち　ち　き　太　や　蛍　ち　ち　寒　山
ぶ　ち　ち　や　社　蛍　ち　出　ち　ぬ　蛍　の　ち
州　よ　入　月　新　よ　こ　ち　蛍　の　形　蛍　雪
海　ち　の　寒　蛍　出　自　ち　蛍　の　形　一　蛍
ち　ち　ち　ち　ち　ち　日　新　や　蛍　蛍　雪
雨　の　蛍　寒　ち　く　一　月　蛍　よ　ち　ち　船

蛍

玉堤の月　玉川
月の家　月の家
月の家　月の家
月の家　月の家
月の家　月の家
月の家　月の家
月の家　月の家
月の家　月の家
月の家　月の家
月の家　月の家

沙魚
小鰐
稚雀

沙魚　沙魚
沙魚　沙魚
沙魚　沙魚
沙魚　沙魚
沙魚　沙魚
沙魚　沙魚
沙魚　沙魚
沙魚　沙魚
沙魚　沙魚
沙魚　沙魚

下り藥　竹内の原に下り藥　越中

藥山子　齊伸寺にて藥山子の夕日影　九州

山路や藥山子の外に人も見ぬ　壯山

雪子　雪の中に雪子の山の雪の夕日影　魯雪

引板　一筋に立ちくたる引板　蕉山

信玄　信玄の家のうち長の信玄の新しき　一茶

焼泉　焼泉や少き泉一つ松の陰　蕉風

焼泉や山を分て出る泉　卜外

焼泉や出て降る雪の中　芦中

乙鳥帰　乙鳥帰る空のくもりて雪の色　文里

雁　雁なくなくなる蘆の穂　此囊

藥の実に藥の実に降る雲の雁　梅通

梅の花や梅の花の梅の花　梅通

梅の花の梅の花の梅の花　此阜

梅の花の梅の花の梅の花　沐

里の灯を雁見るよ天陸の雁　立俊

物徒
竹囊
陸雲
波月
雨の日
紙編
亮裝
百賀
完望
呂波
義山
水月

山吉
掛き
宋乙女
雪江
陸雲
呂馬
徒長
羅賀
完伍
祇之

波
雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四十雀　朱よりそまる四十雀　一清
四十雀まくや雄の日和の色　俊風
椋　雪まくらのくいたらし椋鳥の寒　文里
山雀　山雀や朱を保ついて雲る雪　物菓
鶸　雀の雀や四の鶸の雀　俊風
頬赤　雪て鳴やあらハ鳴よの雀よ
沼鮒　雪は朱の多つく雪千鮒沼る　風交
雪てこ沼てこ沼てこる日和ゆる　鮒　鶸水
鮒ゆる川や雪てる雪てし　双岳
山後る雨の続て雪入田雪云る　此囊
蓑鮒や名き雪へて城る川　一喉

川蓑　その雪の雪の中雪の雪の蓑　此囊
蓑　一夜の雪て雪の蓑の雪　於之
二の雪の雪ふうの雪や風の蓑　出徒
蓑雪て雪の雪の川の雪　徐蓬
雪て雪屋の所の雪て雪の雪　仲風
蓑城の雪の雪　村天
蓑雪て雪て雪　松氏
風の雪て雪の雪て雪の蓑の雪　此囊
蓑雪や雪て雪て雪　逸閑
日雪の雪の雪の雪の雪の雪　徐蓬

新

[illegible]

和泉国

[illegible]

[illegible]

[illegible]

男子は表に九日の節句あり　菊酒

菖の根　菖の根葉のいときたり　呂心

蟻　宋　蟻宋と十把ずつ門口の表　素性

蟻宋や味のよき白しよりあり　赤月

野　酒　野酒を引よせての也野酒の色　素光

酒山の体　酒山の体きたり野酒の色　宗朱

新酒　新酒の津の新酒小　宗里

酒屋酒や世の酒屋の酒の銘きたり　寿宣

物売　売売の新を売くて物売小　中几

独孫　独孫鬼　独孫は新たり和川せうき　東角

物　待　物待や世の逸れ宴　竹叢

門　蒙　蒙売る蒙の門蒙の花　晋坂

日傘　日傘のうきく蒙小蒙小　北書

盃蒙盃　字蒙や窓の日出の花蒙の汁　姫路

新酒や新酒の物のうきのうきのうの花　南天

蒙の灯の蒙の灯の蒙の灯　宋宣

灯市　灯市や灯の灯市の灯の同じもの　南天

灯市や新の灯市の灯の灯の灯　東屋

灯市や灯の灯市の灯の灯の灯　天竺

迎火　迎火の迎火の迎火の迎火　蒙蒙子

近世云合せ[illegible]一字
[illegible]の人[illegible]の[illegible]の墓[illegible]
[illegible]
[illegible]

燈籠

燈籠や百ゝ一ゝまる思ひかな　文雀

ゆきゝゝて燈籠の行きゝ燈籠小　玉清

男もすゝ〳〵ぬるゝ門の灯籠の丸　田几

家ゝゝゝ行きゝゝゝゝゝゝ　叢成

詩歌行ゝゝゝゝゝゝゝ　松夢

燈籠のきゝゝゝゝゝゝ　北囊

あるのゝ　ゆめゝゝゝゝゝ　佳苔

燈籠のゝゝゝ　蕉夫の明ゝゝ　鶴雄

灯籠やきゝゝゝゝ　宵ゝ朱ゝ　峰風

ゝて二世ゝゝゝゝゝゝゝ　文能

夜ゝ人のゝゝゝ　燈籠　松夢

灯籠

ゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

放生会

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文久六百題

垂文部

十月

十月廿日　書信を竹に結ぶ　九紀
十月廿七日　新もち　川　祐之
十月廿七日　ちの子の庭掃除　雲村
十月廿七日　ちの子の稲を見る　雲山
十月廿七日　ちの子の田　屯書
十月廿七日　第四の畑　庭茂
十月廿七日　ちの子の蜂蜜　家義
十月廿七日　新もち　仙芝

十月七日の歌

神無月　山も里も時雨降れば神無月
もみぢ山へあつまるこゝろ神無月　俊成
嵐山の嵐吹く時　しのぶ
雲と信つく神無月　小野
神無月田中の稲の刈り株
きりぎりす鳴く　雅
きりぎりす鳴くの鳴く　世貞
神無月　朱鳥
神無月　信濃　柳
神無月　冬ごもり　一
きりぎりす　鳴く　蔦
神無月　松の根もとの　蔦
　　義

小六月

初冬　初冬の田の蔦　東海
　　海棠の蔦　小六月　係安
　　河田の蔦　河田の蔦　小六月　麦玉
　　松葉のく　義山　初冬　小六月　仙芝

小麦

一日の小麦　惜の小麦　古逸
日のくれの小麦　小麦　逢初　関
引抜く　絵の　小麦の　花　関長
　　世つぎの　蔦の　蔦　小麦　花　蔦
小麦日　ちの　人だの　連理
　　海の　小麦　小麦　蔦
　　松の　小麦の　花　蔦　外文

小春日や　芭蕉よさらるる秋の蝶
世を旅の神も　あきの小春の寒
咲ほこる　菊も　のこりの　ふるさと
さ　後や　二日　法　仏　見　小春
菜　雲　も　義　よ　寒　る　小春　代
世　の　小春　山　の　小　さ　や　寒　の　寒
阿　川　の　寒　松　き　き　春　の　小春
江　の　う　く　や　小春　の　風　を　紅　て　ふ
砂　川　の　清　く　た　の　う　く　小春　の　れ
小春　日　や　子　寒　来　海　よ　陸　て　う
き　く　き　よ　川　の　寒　の　く　小春　代

惟　父
物　き
菜　雲
花　風
鶯　秋
池　鶏
玉　清
宗　秋
陸　奥
小春

寒の子

世　よ　き　き　き　の　生　く　寒　の　子　代
寒　き　寒　て　ふ　風　の　き　ひ　き　い　の　子　代

寒の日

寒　の　日　や　寒　て　山　き　き　一　雪　の　う
寒　の　根　寒　の　根　や　い　く　寒　代　を　こ　の　く　う　寒
寒　き　寒　寒　き　や　寒　て　の　寒　の　な　ら　し　や　寒

寒　牡

寒　き　れ　て　よ　寒　寒　て　う　寒　寒　て　九
寒　こ　の　寒　き　や　く　地　し　や　雪
寒　の　寒　て　や　雨　よ　寒　る　く　山　の　尾

寒　壇

き　し　く　し　柴　下　き　し　や　寒　壇
野　て　る　寒　の　寒　寒　や　寒　壇
人　寒　寒　て　く　く　い　き　ん　寒　て　く

吾　山
双　岳
玉　清
藁　雄
雪　山
う　雲
城　山
雪　毒
書　霞
繁　和　子
俊　風

地焼きよ家を おそ者このまへ　家屋
炉開　焼ものき屋や炉よりく雪の降ものめ　新開
炉ひらきや業しい会せのあく生活　生産
巨焼　窯ちく焼る屋ものも巨焼うれ　業焼
ふくもくる家伝よ新くくもくるうれ　業焼家
問うけるる四方のもくるも墨巨焼　花嬢子
ものくく歳しうるるよくるうれ　炭嚢
焼ものあ業ものもくるぬ墨巨焼　水壺
雪ものもの松みのい雪るくるうれ　文星
うしろのく来る風宇等巨焼代　新開
雪ものもくもくるうよ業屋業の風　塗屋

炉
巨焼
炉
巨焼
炉
巨焼
炉
巨焼
炉
巨焼

湯瀑　霧雲の如く湯瀑を仰ぐ舍り小

神附雨　四方の山を深る赤く紅葉

きめるを見るに神附の雨

物なる夏世の蓋を神附を

泊るに陸奥つ山を赤く紅

毒く咲つ来蓋に山を

ちちいるくよりまく初しく紅

掃よりの者掃う赤めしや初附の雨

七少しめらまふ紅きつ附雨

朝よりも大和の味や初しく紅

附雨　夢辨よりも藪もるしく紅小

栃姫　居山　陸山　物居　詩池　常陸　芦中　完里　東廊　佳居　居

附未だ来よりの赤きつ附る附雨小

大陸も晴る手紅を赤く紅る蓋

陸よりの紅蓋より附雨小

きまるつ附や附雨の陸きしく

生蓋のちつ掃つく赤く紅る蓋

来るしく紅つく味雪橋のきる小

赤くしく紅る蓋より附雨

七つ山るつ赤く紅る山の雪

藪るる一つ脊ちるるしく紅小

大食の巖蓋を拾ふ赤く紅る丸

一つしく紅る味この水し

赤甫　白居　物通　物居　六安　号沒　七東　古堂　一陽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

番樵て時雨て居る中橋のうへ　夢橋
日出て顔て雲の中の去て後　里廣
あまさ雲の去て　時雨の残る　壹長
去て去て雲の去て葉の芦北ろ　土明
雲去んと舟も出て去て後　川越
一て去て時雨て一段樵の音　丶
時雨て去て去て知て居る時雨の残　宗笠
時雨て去て去て山日和　此囊
雲の中て去る時雨の残　丶
て一日時雨て去て去る輝山の葉　東扇
葉の濃て一末の時雨見て時雨小　文志

去る冬

霜

月澄て去て去て雲の去て去て去うへ　重山
時雨て去て月の去て去うへ去て去　去来女
去て去て四季雲去て去て去て去る　華丶
葉て去て去て去て去て去て時雨小　水壹
人の去て去て蓑去て去て去て去小　徒義
御て居る丶去て一霜て去て去て去　士田繁
萩の葉て去て去て霜の去丶　西馬
只居て去て去て去て去て叫の霜　落山
去て物て去て去て去て霜日和　蘆松子
霜て去て去て去て去て去て去て去　花雲子
雲て去て去て去て去て去て去て去　嬉壹

自長
表紙
素仏
紫式部
玉葉
水囊

霧

霧の月
霧の花
霧の蔭
霧の上
霧の花
霧の月
霧の山
霧の月
霧の花
霧の蔭
霧の山
霧の月
霧の花
霧の蔭
霧の山
霧の月
霧の花
霧の蔭

末枯

野よりはるかの遠てらや三笠山　橋通
末のうらしおやとまるあぢの一野家　泊蘆
出のうらしやゆふ浪よせきもつゝ　乗鶴
おのつゝうゝ枝を風のたゝこの葉　樹石
末枯のまけ　米藝の機杖　祐之
末のうらしゝ　結よあり久しうつ松　空翼
出のうらしよこのまゝ月の影　玉泉
菅家や出のうらしゝ　風ゝ男の毒き　遠理子
末枯や猪ゝうゝ　下の雪ゝ　月栖
ものゝ帯もまき風の川原うち　空翼
末枯よふうむく枝のこゝきゝ　栖的

初雪

出のうらゝの雪ゝ枝を吹ゝ　不二丸
末枯のあゝゝもまきゝ夕日の雪　此叢
風や　うゝの雪ゝうきしゝ　春玉
末のうらゝや月を積よ吹きる　百賀
おもむろよ　風うゝ帯の薩の雪　米晴
末のうらゝよ　をたつきゝ　ゝけ代　竹文
末枯のあゝゝや　ゝ　竹の月　保蓮
末のうらゝや蘆出ゝ　ゝ　際の雪　由九
出のゝゝ　通ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　我の丸　秋沼
初雪や人ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　名のゝ　澤　祐之
ゝつ雪や　ゝ　ゝ　ゝ　雪家井　仙月

[illegible]

初雪や家ゝ[illegible]ふるとも思ふかな　文雄

初雪やいふてもとゞまるこのしゝ　車角

[illegible]雪や[illegible]人の[illegible]ふの[illegible]　化嚢

初雪や[illegible]もかなまき[illegible]の下　ゝ

[illegible]雪や[illegible]の[illegible]家[illegible]　一字

初雪や小[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　仲文

初雪や月も[illegible]ゝ[illegible]の上　田毛

[illegible]雪の[illegible]ゝ[illegible]煙[illegible]ぬけ[illegible]　[illegible]

初雪やいろ[illegible]つ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　永月

初氷

[illegible]書[illegible]の[illegible]やもの[illegible]　氷

[illegible]氷[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　一字

[illegible]雪[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　文星

[illegible]る　[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の上　田氏

[illegible]の月　[illegible]の月[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　種好

[illegible]の月[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　物笠

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の月　[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の月　友之

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の月　徐来

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の月　仲嶋

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の月　[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の月　[illegible]

[illegible]の[illegible]を[illegible]い玉ふ事[illegible]の月　氏[illegible]

冴月　砂漠の[illegible]おもかげ[illegible]たゝえ[illegible]ゆる月　[illegible]

寒さ　[illegible]ちをきたのゝ[illegible]を[illegible]　[illegible]雪

[illegible]櫻や[illegible]ゝ[illegible]ら[illegible]を[illegible]葉の[illegible]　[illegible]

[illegible]ら[illegible]ら[illegible]　[illegible]

[illegible]向[illegible]不二よ[illegible]　玉[illegible]

[illegible]ゝく[illegible]の[illegible]　夕[illegible]

人の[illegible]る[illegible]　[illegible]中[illegible]

[illegible]灯の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　雪江

[illegible]　[illegible]

橋

[illegible]人[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]近[illegible]氏[illegible]橋の[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

炭竈

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

炭

[illegible]の[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

園の面影やそれかはつけ麦　文雄

野の雁や暗き時雨の夕ぐれ　静風

行雲やそれかと同じ峯の雲　庚儀

蕣のうつる雲の夕ぐれ　常清

春の雨　蕭々として降りあり　雨しつる

蕭々時よりふるまもなく春の雨　永夢

春雨　庭もまきの人のうたれる春雨　一清

寂しさの居たる丸　春雨の居たる　吾此

松ふる夕日を出る春雨　世負

一間ゝ春先物ゝ春雨　寸蜂

活ける梅ゝ春雨の夕日の家　梅新

蕪村翁

文雄

再来ゝ孔雀戸出掛ゝ春雨丸

寸の新井戸ゝ入ゝ春雨の家

口外

無ゝ世ゝ出ゝ春雨ゝ出ゝ

俳諧　蕪村翁

俳諧蕪村翁

俳諧蕪村翁

俳諧

世質
永芳
吉業

交種
交里
陸奥

陸奥
未美
種長
郡山
家教女
齋藤

陸奥
人里
吉宣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

漢食

接雪

一川

桃花

粤雪

波田

之藻

長崎

種物

東月

約束

雪風

雪華

雪吹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

空の雨　氷柱　垂氷　凍川

[illegible]

文里

氷る春や行方を雨の雲の雲
毎夜寝ざめの枕もとの氷
一雪の重のうへの氷る　深度月
[illegible]　波翠
[illegible]　仙芝
[illegible]　我山
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

雪 踏 雪踏のちんてあるを再吟
雪 車 雪車やうなるものの出る
いのちんてく雪車の出る
雪車こんてきたものは雪坂
雪荷出る雪荷のきへある
橋 橋に見よ
橋のあし 橋にかけるもの
師 走 師走のよりの海老
雪 月 雪月花
寒 梅 雪梅の月を向て立

東里 百賀 茶保 寿歯 松民 一京 家子
東日和 寒さの出てくる一寒日和
蕨 菜 蕨出る 蕨紫 屋村
蕨のくさ 蕨 蕨出る 蕨出る 蕨山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紅葉茂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後園

[illegible]

枯芒

[illegible]

枯尾花

[illegible]

素圓

山吉

[illegible]

枯蕨

[illegible]

蓬 枯る 枯蓬や弾くぬ隣りきなて一点　芳子
この世蓬や弾くぬ居の言まき他のきハ　仙芝
枯菊 枯ハまたや淋を来る風のふきよる　不二先
枯萱 雨風を清き数たくしの生る萱　文里
枯李 この世蛙や忘めつ一つの数蛙よ古井筒　五山
秋傷や この世て一ぬ蓬きき蛙の蓬　雪雪
蓬枯や 蓬きハ蓬畑ち枯まく　樵下
枯蓬 こをちこ小枯ぬ蓬の蓬　枯石
枯柏 蓬ぬ蓬く生ぬ蓬や枯　
枇杷の花 ちこ一ちハ生ぬこ枯枇の花　永信
蓬の花 蓬の生ぬ白ハ白の花　此裏

蓬花ちこ一ちハ時ぬく蓬山の花　陸雲
蓬の生や雲のこ生ぬ住居ふり　
蓬の蓬や畑こ一ちの数蛙の内　百賀
蓬の生や影の蛙生こく里　文志
蓬の花や蓬雲こ名よ竹数里　永春
山蓬花 山蓬生や眠ぬ生こ数種こ生ぬ　葉号
きこん生や蛙の蛙こ生ぬこ　春山
山蓬生こ生ハ小蓬蓬よ生ぬ蓬尾　テハ 文宮
山蓬生や生ぬ生きハ文きこ生のある　逝世
帰花 永信る 鶯の蓬一のこ 花　樹石
蓬よ生こ帰ぬ日のあこ生ぬ生　碧水

夕日さす楊よ出よとうぐひす
ちさこの木やしのきやのうよ帰せ
日の入て日の白しあくうの花
咲きまさりたるよ立ちあせ降りせ
降りせ糸よりの敷きたりの集
葉ちさ葉の根よりのきむ赤ゆ降せ
咲き気ちきく人しよりせてこのうせ
葉ちて紅のあるもあるうの花
咲ら時ら咲ちさのうを降りせ
山蔭の赤ちて庭ちのうせ
黄ちて咲う都ちる山ちのうの花

世風
山古
窟里
雲
松聚
陸月
数月
市笠
竹囊
数金

牡丹

咲気力強ちもちり牡丹
ちよ堂のまりけもちて
一輪よ日きまりあり牡丹
風よ雨ちきくやち牡丹
いちち云の苦ちもちん
蕾よちる赤ハ葉ち八重咲
咲ちり咲ちハ赤一宝の物
赤ハ宝へちて墨絵の物
宝候の物よりうへる日数の形
偽ち人のうへちり宝のり集

牡丹
氷雪
古影
星乙姫
雷鼓
氷壺
庭花
煙風
雪山
壺雪
雪東

八重の花
宝の物

石蕨の花　世の常の草花に似て葉のくさ〳〵に蕨に似たれども一つの花
梅の花　葉くさ〳〵の花よりはやく梅の花
水仙　あらそうとさくよりはやく咲くうめ
水仙の葉　花のうちにかれる山茶花
水仙花　あきはてゝ雪の中に咲く
水仙の白ふね　花の白きもの
水仙の花　花のうちにかれる
水仙花　雪の中に咲くうめ

寒梅　寿山　梅の実　清河　為山　花也　仙月　水月　波間　実　文雄

実蕨　水仙花　雪の中に咲くうめ
実きくの花　実の花のうちにかれる
実きくの花　実の花のうちにかれる
実きくの花　実の花のうちにかれる
実きくの花　実の花のうちにかれる
実きくの花　実の花のうちにかれる

大根引　陣の内にあきこる雪に大根引
門畑の月　大根を引て大根引
提灯　毎の雪に大根引
雪の雪　雪に大根引
陣の雪　雪に大根引
陣の雪　雪に大根引

雪橋　花松　乙丑　提雪　赤山子　心　九紀　六提　秋山　鼓山　文雄

千大根　板の戸くされる大根の丸　苔坂
切干やくさり日のさし塚のうへ　雪山
切干や結搖ふる日の塚よりも　文里
菖蒲　蓑　ちりぬるゆめさせる菖蒲の蓑　不生
海鼠　漬　海鼠の味ひ和布の味ひ　この世
干菖蒲　うるさくもまきめさめて菖蒲干菖蒲　表象
石垣のそば　菊ふるる　菊ふるる　梅渓
梅の一雨の後　干菖蒲の葉　孤岡
生きたかの花　長の花の形　安月
蛭生姜　蛭の一ひし塚の如く蛭生姜　清水
麦蕨　ある隈ちや麦まく畑の蕨　雨文

坂ちや麦まく畑ちのて蕨の　苣廣
雨雲の出て麦蕨のいたきかな　夢形子
新会ちく麦蕨ぬ雨の去　雪亀
陰雲の月ちや麦の中ぬきまつ　峰阪
蕨の生長午雲日雨やまつき　出係
出風よ雲笑通ぬ法ちきうれ　相蓑
蕨の一笑よ雲の何り　雲　扶　飛月
月よりるちるハつのきの物　素子子
咲ちまく蕨ちる海ちる北物　蓑二
ゆちやのちくまち山郭やまの物　雨相
咲ちまの山ちるけきあうまの物　玉清

[illegible]　風交
寒梅　[illegible]　梅花
[illegible]　麦玉
[illegible]　百賀
宝樹　[illegible]　樹竹

綱代　[illegible]　綱代[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　綱代[illegible]　[illegible]
[illegible]　綱代[illegible]　[illegible]

氷魚　綱代小家　玄子
鱗鮮　[illegible]　陰食
[illegible]　[illegible]　未見
[illegible]　[illegible]　常寒
[illegible]　[illegible]　嵐望
[illegible]　[illegible]　[illegible]下
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　角長
[illegible]　[illegible]　車角
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

赤壁の峰一歩ごとに木の葉月冬
来るや秋ごとに紅葉の常の兵
風よ紅をさらしてこれ一滴不香
花よ咲くるまでの心やいつまで春ちとせ
笑を束ねて千代を海ふちとせ
一言よ春を出ずるに機子香
春の光を雲ちよ春の潮うれ
門を開きて秋を雪ちとせ紫
川筋を出でしの入やいや春潮
陣中のよ春を狩ちとせ時潮
風よ都る磯よ峰ちとせ潮
柳好
三徒
梅通
麦香
乙五
弱吟
梅好
吟風
吐雪
一吸
雪翠

春の水寒き川ちとせ
波接て集る風ちとせ潮
月の春を海舟ちとせ月
立多の野ちとせ峰ちとせ
春ちとせの海ちとせ
新の都ちとせ峰ちとせ
明星て一寒ちとせ
沙風よ宝ちとせ
翼の新の春ちとせ峰ちとせ
ちとせ寒ちとせ舟の月和ちとせ
紫之
明水
風月
梅下
赤山
魯雪
陵雲
梅徒
波月
翠山
彩五

[illegible] 山吉
[illegible] 古蒙
[illegible] 嶮風
[illegible] 藁雑
[illegible]

[illegible] 素清
[illegible] 竹筍
[illegible] 長松子
[illegible] 水雲
[illegible] 水雲
[illegible] 水雲

[illegible]

静風
星麿
巨樵
横園
蒼玉
梅臣
春山
佳景

鶯

[illegible]

鶯

[illegible]

故鳥
乙也
雨文
如樵
重江
中喜
芳川
甫天
陵月
蓑玉

引ものゝ場をこのへる所　寒月
うゝ所のまる義つきゝ　義しの小野　義松
義る日のうゝ人ものきゝ　寒やゝ　野　野戦
廻りのうゝ　ゝ　ゝ　之　法
田ゝ　ゝ　ゝ　小松
ゝ　ゝ　ゝ　碧
ゝ　ゝ　ゝ　雪山

夜異引　夜異引のゝ　ゝ　ゝ　陸
岩陰嵐　嵐のきゝ　ゝ　ゝ　

松きのこや美さくらぬくきに麿宿　山松
竹ゝ根こそ麿のきくに　時　雲光
麿屋ゝ社きぬ帝る世風このめく　田像
鶯きけこゝ人ゝこのめぬ麿世ゝ形　住吉
麿の世ようつる蘇のそゝ者きる　兵豊
雪　竹　雪竹ゝ世烟よ宿る雪ゝ　巳信
雪きけこゝ下ゝ重の唯侍ゝ　等月
愛め雪　雪ゝ形ゝめよ雪ゝ　世負
雪ゝ葉の世ゝめ物ゝぬくゝ　世秀
きるゝ山ゝ竹ゝ除山の世くめ雪　住吉
竹世ゝ行ききぬくめ雪　乘望

鯨　鮫　杜父魚　小鮒　鶯姑巣

めくめ雪雪ゝ世ゝ世ゝ　峰風
世ゝ雪ゝ　鯨　鮫つきゝ　杜父魚　概説
鮫つきゝ人のゆのぬ山　ゝ数
ゝ雪雪ゝ兎ゝ世ゝ分ゝ　重ゝ
杜父魚　ゝくゝゝ沖ゝゝ何ゝ　不重
雪ゝゝ杜父魚ゝ陸ゝ　一寸
小鮒　竹きゝ尽ゝ数ゝ小鮒　一両
鶯姑巣　巣くゝ小鶯ゝ世ゝ　井水

更衣　天子代喪考ふ　文衣　藁雑

藁の口切　[illegible]　絲蓮

[illegible]　中凡

[illegible]　一寸

[illegible]　頭丸

[illegible]　住居

[illegible]　喪服

納豆　藁苞の切りて[illegible]　納豆の形

貝焼　貝焼や[illegible]ふ灯の[illegible]　藁雑

蕎麦湯　麻を殺ぶ[illegible]　藁雑

風呂吹　[illegible]　外交

[illegible]　[illegible]　[illegible]

綿帽子　小紋の小袖合の[illegible]　綿帽子

[illegible]　[illegible]

綿子　孫八の重[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　

[illegible]

蒲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寒造屋　[illegible]

神送　[illegible]

進ず呂　[illegible]

十夜　[illegible]

芭蕉呂　[illegible]

師會式　[illegible]

師影講　[illegible]

麦名尊大祓を引て山命讃　唯風
山命讃や産く我が出し来　襲岳
ちちのつくりて世の数や山命讃　不二九
大出
山郎我　乗て生出る雲の遠ぬ山の出
面貴の鏡て竹の中や山の城　二階
雲の内に出る新しく新出し　東雲
家内中出る山の城　巣城
多り雲て山の中や出し讃　許十
一つ世の来りて山や来る　宇吸
下の雲を入荷よ雲の来讃　巻也
神と山の来る山　文里

神集　いなきよく陸風の神集　集
神集あくしあつまる社の明　蔡雅
神の明方　明るきの宮まる庭や神の明方　徒長
風まるく物る来て神の明方　一家
神迎　大風の来るまく世の神出のく　来奏
出つて立風の来て神出のく　来宮
星神乗　物のく竹の二つ乗て出このくら　永乗
麦の世るの待のるまるまく星乗　一家
新るのりてるまる神乗の庭史れ　一野
大師鄰　麦る宮世るまく来や大師鄰　唯風

御供焼　栗蜂の焼うり　御供　よのうるうり　中餅
栗焼や　鬢の中　おのうるも　栗し　柏餅
商の市　中のうり　屋敷　うるも　栗ほし　一雨
空也忌　空也　忌　傳　きうり　月　粗　一雨
弥勒　弥勒　弥勒　弥勒　弥勒　弥勒　樹不
中　中　一　さう　赤出　赤　弥　文種
ちうう　ちう　様　ちう　ちう　ちう　ちう　ちう　化　嚢
弥勒　弥勒　弥勒　弥勒　弥勒　弥勒　弥勒　弥勒　中　几
弥勒八　やうう　きこの　葉出　実の　下　一寸
出仏　名　ちう　出名　仏　仏の　日　出仏
空玄　仏　ちう　弟　ちう　空　仏　陵　名

模様を見よ　空　仏　空　仏
空　ちう　ちう　ちう　ちう　ちう　仏　空　山
雨の　模　ちう　ちう　空　仏　梅　菓
つ　空　空　ちう　空　空　仏　文　仏
空　ちう　ちう　ちう　ちう　ちう　仏　成
空　仏　空　ちう　空　空　ちう　仏　不二九

豆　打　空　空　空

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

除夜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乘の来

乘の名称

[illegible]

[illegible]

[illegible]